

## 『沖縄県のこれからの消化器・腫瘍外科を担う若手へ』

琉球大学大学院 消化器・腫瘍外科学講座（第一外科）  
医局長 長濱 正吉（6期生）

病態消化器外科学講座（第一外科）は2010年（平成22年）4月から琉球大学大学院消化器・腫瘍外科学講座と講座名を改称しました。従来の第一外科の名称は琉球大学医学部附属病院第一外科として残っています。

南風の紙面には2007年に当科の國仲弘一（平成11年卒）が一度掲載させていただいていますが、せっかくの機会ですので改めてご紹介させていただきます。

第一外科は正義之教授・武藤良弘教授のあとをうけまして、2002年4月に第三代目の西巻正教授が新潟大学から就任され現在に至っております。臨床（診療）及び研究グループは、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺・内分泌、小児の5グループに分かれています。医局内外を問わず、全ての医局員は、このいずれかに属し、subspecialityを持つような体制になっています。外科は手術修練および技能習得が非常に重要です。西巻教授赴任前には年間220-250例程度であった当科の手術症例も年々増加し2009年は

約500例を数えるほどになりました。

西巻教授就任後、各診療グループは各種癌に対して治療方針を定め、前向きに癌治療を行ってきました。そのデータが5年以上経過（癌診療は5年経過して初めて生存期間などの評価が可能となる）、長期成績が報告できるようになりました。今年4月に名古屋で行われた日本外科学会にも上部消化管グループから当科・下地助教（前医局長）によって食道癌の治療成績が報告されています。今後、下部消化管、肝胆膵をはじめ各臨床グループから、活発に臨床データが集積・報告され、第一外科の屋台骨を支える礎のデータとなっていくものと思います。

当科では、卒後初期臨床研修後の後期臨床研修にも、力を入れています。おかげさまで、平成21年度は後期臨床研修医2名を含む新入医局員が3名、平成22年度は後期臨床研修医3名を迎えることができました。少しでも、外科に興味を持っている（ような素振りをみせる）学生・初期臨床研修医には積極的に四



【医局集合写真】

平成21年度 琉球大学医学部（病態消化器外科学）